

日本初—屋外で使える

大きく丈夫な西陣織紋織物の開発

にしじんはんぷ
西陣帆布 株式会社

代表取締役 首藤充さん



首藤充さん

西陣織の帆布という発想

西陣織の伝統技術を産業用繊維素材に融合させ、防水性と防災性を兼ね備え、屋外でも使用できる大きく美しく丈夫な西陣織織物の帆布（キャンバス地）。誰も見たことがない、こんな夢のようなアイデアを実現させたのが西陣帆布株式会社です。

西陣織の紋織物技法を活かした屋内用のインテリアファブリックは数多く存在していますが、屋外で使用できるエクステリア用ファブリックの開発は国内初の取り組み。

この動きに着目した京福電車が、沿線の桜の名所を織り込んだ桜柄の帆布で電車胴体を装飾した「春の風物詩—西陣織桜電車」を運行させ、一躍、話題になりました（平成21年3月～5月）。また東京ビッグサイトで開催された第39回店舗総合見本市「JAPAN SHOP 2010」では、オーニング（日よけ）、ロールスクリーン、屋外テント、鞆、パラソル、畳などを出展、カフェに取り付けるオーニングなどいくつかの商談が成立した他、その後も問い合わせが続いています。



西陣織桜電車（京福電車）

きっかけは祇園祭りの山鉾

「そもそものきっかけは、京の夏の風物詩とは言え、梅雨まだ明けやらぬ時期に開催される祇園祭りの山鉾を飾る絢爛豪華な西陣織のタペストリーが、雨よけのビニールシートで覆われているのを見るたびに、「あれはなんとかならないのか」と嘆いていた前社長の思いつきから始まりました」と、現代表取締役の首藤さんは語ります。

残念ながら祇園祭りの山鉾装飾に関しては文化財指定のため、屋外使用可能な西陣帆布でリニューアルするという夢はまだ実現していませんが、このアイデア、これまで屋内でしか見ることができなかった西陣織の認知度を高め、伝統のまち京都と京都の伝統産業活性化に多いに役立ちそうです。

伝統製品の活用

従来、色つきの帆布の場合は、通常、糸の段階で着色する、もしくは生地になった段階で着色するのが通常ですが、西陣帆布では、糸になる前のペットボトル廃材を切り刻んだ段階で着色する「再生原着糸」を横糸に使用しています。「原着糸」は紫外線による色落ちが少なくなるのが特長で、さらにペットボトル廃材を使っているため環境にもやさしい素材です。こうしてできた糸を提携している京都市産業技術研究所繊維技術センターが開発した画像紋処理システムを有する西陣織の織屋さんのほうで実際に製織してもらうのです。

問題は大型織機の購入資金でした。ファンドはこの帆布を織るための幅広の大型織機の購入に貢献し、同時にそのことが西陣帆布株式会社を立ち上げる契機になったのでした。



JAPAN SHOP 2010

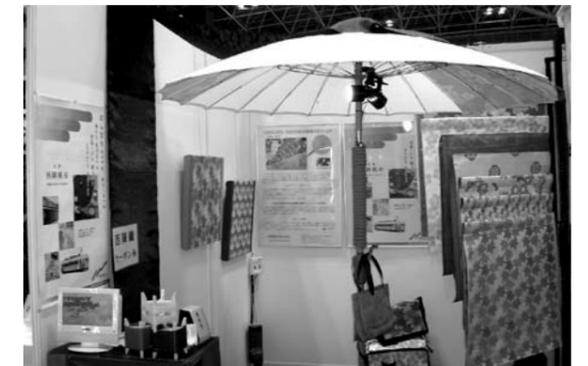
実際に商品開発してみると

ところが実際に屋外で使用可能な製品の商品開発をはじめると、当初、予想していなかった問題が出てきました。直射日光の下で長時間使用するためには色落ちしない紫外線対策、商店などで使用するため消防法をクリアする防災加工、そして防水性が必要です。「基本は日除けを想定していました。優先順位でいくと紫外線対策、防災性、防水性の順番です。雨などの防水性は、当初耐水圧100mmを商品の開発基準に考えていました」。ところが実際に屋外の雨のなかで使用したいというユーザーも多く、こうしたお客には耐水性の高い生地の提供が求められました。「耐水圧100mmだと長時間雨に晒されると織り地の糸の間からどうしても水が染み出してしまいます。インテリアや鞆などの材料、半屋外で使用するケース、日除けとして使用するケースにはなんら問題がないのですが、雨除け目的という点では問題があります。ただ、これはファブリックの風合いを維持したいという意味からあえて耐水圧を弱くしていた部分もあります」。しかし、顧客から「屋外で使える、と言うからには完全に雨よけとして使用できるような物がほしい」という要望も多く、昨年、耐水圧1000mm基準の商

品の開発に乗り出しました。

この問題は布の裏にラミネート加工を施すことで解決しました。コスト的にも100mm圧のもの1.5倍で実現することができ、逆に耐水圧を1000mmに高めることによってパラソル、天幕などの商品化が可能になり、商品開発の可能性を広げることにつながりました。現在は半屋外用と完全屋外用の二種類に分けて生産しています。

また実際に商品開発の問い合わせが来るようになって、さらなる課題としてあがってきたのが、デザイン性の問題でした。現在、プロトタイプとして「春—桜柄」と「秋—紅葉柄」の2種類の紋様をリリースしており、今後は四季展開していく予定ですが、これも人によって好みが分かれるのです。屋外テントには四季を通じて使えるノーマルな柄がいいという意見もあり、さまざまですが、一点一点のデザイン要求に対応していると今度はコストが合わなくなります。デザイン、小ロット対応をどう考えていくか、今後の課題です。



西陣帆布を使用した商品

どこに市場開拓するか？

「商品の研究開発はすでに完成してきています。今後は市場の開拓と具体的販路をどう設定するかが次の課題です。当面は店舗設計のデザイナーさんや鞆のデザイナーさんなどが顔が見える顧客になると思っています」と首藤さん。

京都の伝統産業である西陣織とこれから先、どんな場所で出会うのか、どんな新製品が登場してくるのか、今後の展開が楽しみです。

事業概要

西陣帆布 株式会社

<http://www.nishijin-hanpu.jp/>

代表：石川雅迪 首藤充

業種：帆布製造・加工・販売業

創業：平成20（2008）年 設立：平成20（2008）年

住所：〒602-8061

京都市上京区油小路中立売下ル甲斐字町97番地

エヌ・ティ・ティ西日本株式会社西陣IT路地 Room4

TEL：075-432-8522 FAX：050-3488-5923